

令和6年度 運営方針 評価表

4:大いに達成できている 3:達成できている 2:あまり達成できていない 1:全く達成できていない

1. 質の高い教育実践を維持しつつ、継続して教員の教育実践能力の向上を図る。	自己評価	他者評価
1) 教材研究、授業案の充実性に重点を置いた研究授業（6回/年）の実践	3.0	3.3
2) 研究計画書作成及び研究成果（2題/年）の共有と教育実践への活用	4.0	4.0
3) 学生の学びの質を高めるためのパフォーマンス課題とルーブリック評価の見直し	3.0	3.3
4) 実習科目のルーブリック評価の見直し検討	3.0	3.2
5) 実習指導者との連携を強化し、実習指導の充実を図る	3.0	3.2
自由記載		
<p>1) 質の高い教育実践であり続けるよう、きめ細やかに学生の学びを支援していることがよくわかる。教員の教育実践能力向上に向けた研究授業の他者評価、自己評価ができています。評価を共有することで教員全体の教育力向上につながると考える。</p> <p>学校運営方針に沿った取り組みを確実に実施し、評価できている。</p> <p>3) パフォーマンス課題、ルーブリック評価については、課題を明確にして見直しが十分にできていると考えた。</p> <p>5) 実習指導については、病棟スタッフとのコミュニケーションを図り、学生指導をより充実できている。実習指導者と定期的な検討の場を設け、学生が効果的に学べる環境づくりができています。学生が充実した実習ができることは、看護の質の向上につながる。</p>		

2. 病院経営に対する意識を高めつつ、附属養成所としての安定した学校運営を図る。	自己評価	他者評価
1) 職員の確実な休憩時間獲得と超過勤務時間削減	3.0	3.2
2) 教員の管理能力の育成と支援	4.0	4.0
3) 2、3年生の学生が滞りなく履修できる支援	3.0	3.8
4) 美化活動が定着するための体制づくり、節電・節水の推進	2.0	2.7
5) 新刊図書の実践と不明図書ゼロを目指す	2.0	2.8
6) 適正な物品請求と消耗品の整理整頓	3.0	3.2
7) 防災訓練の計画的実施とアクションカードの見直し及びマニュアルの見直し	4.0	4.0
8) 文書管理規程に基づく文書管理と廃棄	3.0	3.0
自由記載		
<p>1) 休憩時間獲得においては、事務員、学生との協力で努力が現れている。</p> <p>2) 母体病院の委員会活動の委員として役割を担うことで、教員の管理能力の向上につながっている。</p> <p>4) 美化活動については、昨年度より学生の主体的な行動が見られ評価できるが、まだ少し埃等気がかりな箇所がみられる。</p> <p>昨年度の課題に対し手立てを明確にして取り組まれており、その数値や報告より効果が出ていると評価する。</p> <p>本年度は猛暑日が続く気象状況で、学生・職員の健康管理のため冷房の使用は必要で節電は困難な面があると考えます。</p> <p>5) 不明図書ゼロは達成できていると評価する。</p> <p>6) 学校の備品を大事に無駄がないように使用する意識が定着している。</p> <p>7) 防災訓練については、避難に係る時間がかなり短縮され非常に成果が出ている。</p> <p>防災訓練が計画的に実施できている。また発災時の対応が具体的に検討されている。引き続き何時起こるかかわからない大規模災害に備えた対応を検討していくことが重要である。</p>		

3. 国立病院機構及び地域社会に貢献できる人材の育成とキャリア支援を行う。	自己評価	他者評価
1) ホームページの即時更新、学校の取り組みの情報発信の工夫	3.0	3.2
2) 母院への就職率：30%、機構への就職率：50%、県内就職率：50%以上	3.0	3.0
3) 国家試験対策の強化を目指し、早期から段階的な取り組みで合格率100%を目指す	3.0	3.2
4) 教員各自の専門性を活かし、母体病院を含む国立病院機構及び地域社会への貢献	4.0	4.0
5) 卒業生が継続的に働けるための支援	2.0	2.3
自由記載		
<p>3) 国家試験対策は早期から取り組みができています。模擬試験等の結果を分析し、支援教員を配置するなど個々の学生に丁寧な指導ができています。</p> <p>4) 教員が母体病院や院外の研修会の講師を務めるなど、専門性を活かした地域貢献ができています。</p> <p>5) 卒業生への支援は学校としては情報収集等努力はみられるが、入職した施設側のこともあるので難しさを感じた。現状の中で卒業生への支援はできているものとする。閉校後のフォローについては、組織の課題と考える。</p>		

4. 学生の主体的活動を支援し、自律した学生を育成する。	自己評価	他者評価
1) 学生同士で教え合い学び合うを目指し、学生間交流の推進と学生QC活動を支援	3.0	3.3
2) 看護学生としての自覚を持った情報管理ができる情報モラル・医療安全教育の推進	2.0	2.7
3) 学生個々の状況にあわせた個別相談や進路選択の支援	3.0	3.2
自由記載 1) 2学年しかいない中での学生の主体的な活動は、協調性や責任をもって役割を果たすなど、社会人としての基盤づくりにつながっていると考えられる。 ビジョン・ゴールシートや成長エントリーシートなど学生の主体性を引き出すために、学生に寄り添った指導がなされている。 QC活動や文化祭など学生の主体的な活動や交流は十分達成できていると思われる。 2) 実習中は実習用バッグの活用でインシデント防止ができています。 個人情報を扱うという自覚と責任は、授業で学ぶとともに、日頃の生活の中でもその意味を考え行動できるように取り組んでいく必要がある。 教育活動として適切な取り組みは行われている。		

5. 閉校に向けた準備ができる。	自己評価	他者評価
1) 学籍簿の確認とデータ整理	3.0	3.0
2) 同窓会と協働し、閉校に向けた準備を計画的に取り組む	3.0	3.0
自由記載 1)、2) いつも多大なる力添えに感謝しかありません。 通常の学生指導と並行した閉校への準備は大変だと推察する。 学校の61年間の歴史を整理し記念誌として残していくことは、多くの卒業生や関係者にとって閉校した後も学校の存在価値を意味づけるものとなる。同窓会や病院等の協力を得ながら取り組んでいただきたい。		